科目コード	記号	科目名	学年	単位・時間	必修・選択	授業形態	単位種別
3142	MBG01-1	国語Ⅰ(現代文・漢文) ： Japanese Ⅰ	1MB	2・90分	必修	講義・通年	履修単位
教員名		畑村学：HATAMURA Manabu					

授業概要

1年間を定期試験を区切りとして4つに分け、前期は、(1)読解と要約(文章を読み大事な箇所やキーワードを探す、主観と客観により線を引き分ける、要約文を書く)、(2)図解(文章を構造化する簡単な図の作成、図を説明する説明文の書き方)を学習する。後期は、(3)スピーチ・プレゼン(1～3分間でスピーチ・プレゼンを行う。原稿の書き方、話し方、聴き方、質問の仕方を学習する)を行い、(4)小論文(主題、段落を意識した文章の作成)を学習する。

また、1年間を通じて漢字テスト(漢字問題集)、読書(年間20冊。一行感想)を継続して行う。授業では、ほぼ毎回プリントを配布するので、順番にファイルしていく必要がある。また、授業ではレポート課題を出し、到達目標として掲げる4つの力の定着をはかる。

到達目標	評価方法
(1)読書の習慣が身につく。年20冊以上の本を読み、読んだ本に対してコメントが書ける。大事な箇所やキーワードに線を引き分けながら文章が読める。(読む力) (2)型を利用して文章が書ける。長文を読んで要約、コメントができる。文章の内容を要約する簡単な図が書ける。漢字検定3級をクリアできる程度の漢字の知識が身につく。(書く力) (3)スピーチやプレゼンテーションの基本を学習し、テーマや構成が明確であり、説得力のある話し方(声、態度、資料の示し方)ができる。(話す力) (4)スピーチの評価ができる。スピーチに対して具体的で本質的な質問やコメントができる。(聴く力)	①定期試験(中間・期末試験)、②レポート及び提出物により評価する。各定期試験の評価は、①60%、②40%とし、4回の評価の平均を学年末の成績とする。国語Ⅰ[3単位]の最終評価は、国語Ⅰ(現代文・漢文)[2単位]と国語Ⅰ(古文)[1単位]を2:1として総合的に評価する。

学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(1)	

前期

回	項目	内容
第1	ガイダンス	国語の授業概要・到達目標・成績評価方法等をシラバスを中心に説明し、一年間の授業内容を理解する。
第2	読解と要約①	「要約」とは、複雑な事象のなかから大事な箇所を抜き出し、それを整理して提示したものである。情報化社会では、大量の情報の中から重要なものを選び、秩序立てて再構成する作業には「要約力」が必要となる。また、要約力は、対話やコミュニケーションにおいても必要である。 授業では、教科書や教科書外の文章を教材として読解力と要約力を鍛える。具体的な作業として、文章に線を引いたり、キーワードに印をつけながら読解する。線の引き方にはポイントがあるので、最初にそれを学習してから文章を読む。 線を引いた箇所を利用して「要約文」を書く。要約文の9割は本文の引用であり、残りの1割がつなぎの言葉や補足の言葉である。線を引いたもっとも大事な箇所や、文中のキーワードは必ず要約文に引用する。 以上の作業を授業やレポート等でくり返し行うことで、読解力と要約力を養う。
第3	読解と要約②	
第4	読解と要約③	
第5	読解と要約④	
第6	読解と要約⑤	
第7	読解と要約⑥	
第8	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第9	図解①	文章を要約するための図の基本的な書き方を学習する。また、図を説明する説明文の書き方を理解する。 国語で言う図とは、文章の構造を理解して、文中の「関係」や「変化」などを、文中の語句(キーワード)や表現を利用しながら、矢印や丸を使って簡潔に表すことである。 図は最もシンプルな要約であり、骨格に当たる。複雑な物事や事柄をわかりやすい図として提示できる能力は、プレゼンテーションなどでも必要とされる。 テキストは教科書に掲載される現代文や漢文および新聞記事を用いる。
第10	図解②	
第11	図解③	
第12	図解④	
第13	図解⑤	
第14	図解⑥	
第15	図解⑦	

後期

回	項目	内容
第16	スピーチ・プレゼン①	本単元では、スピーチ・プレゼンのための「発表メモ」の書き方、スピーチ・プレゼンの仕方(話し方、態度など)、聴き方、質問・コメントの仕方を学ぶ。 スピーチ矢プレゼンの内容は、発表メモを利用し、テーマや内容の構想を練る。 実際の授業では、少～中人数のグループで基本的に行う。発表者は話し方や時間配分を考えて話す。また、前期に学習した図解の知識と技術を活かし、スピーチやプレゼンに効果的な資料を作成し、それを使って話をする。 聴く側は、スピーチやプレゼンを審査する。また、スピーチやプレゼンに対して質問やコメントを行う。質問やコメントは、本質的で具体的なものを心がける。 以上を繰り返し行うことで、話す力・聴く力を修得する。
第17	スピーチ・プレゼン②	
第18	スピーチ・プレゼン③	
第19	スピーチ・プレゼン④	
第20	スピーチ・プレゼン⑤	
第21	スピーチ・プレゼン⑥	
第22	スピーチ・プレゼン⑦	
第23	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第24	小論文①	読者を意識した作文と小論文を書く。 「作文」とは、自分の感受性をアピールするもので、具体的体験を文体を工夫して書く。1年生の作文では、身近な話題をテーマにして作文を書く。 「小論文」とは、社会問題に対して知性や論理性をアピールするものである。「英語教育の偏重」「公的な場所での禁煙」等が小論文の課題である。1年生の小論文では、学生生活における諸問題を課題として小論文を書く。 作文・小論文ともに、主題を明確にし、段落を意識した文章を書く。そのために、まずプリントを利用して、課題の検討、主題の決め方、材料のそろえ方、段落構成の仕方等を理解し、その上で文章を書くことにする。 課題を変えて何度も書くことで、わかりやすく、主旨の明確な文章の書き方を習得する。
第25	小論文②	
第26	小論文③	
第27	小論文④	
第28	小論文⑤	
第29	小論文⑥	
第30	小論文⑦	

関連科目	
教科書	高等学校 新訂国語総合 現代文編(第一学習社)・高等学校 新訂国語総合 古典編(第一学習社)
参考書	『ステップアップ高校漢字問題集(東京書籍)・カラー版新国語便覧(第一学習社)
副担当教員	
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
備考	プリントをファイルするバインダー等を各自準備。ほぼ毎時間漢字テスト・読書時間有り。授業時に読む本を持参すること。 国語Ⅰ[3単位]の最終評価は国語Ⅰ(現代文・漢文)と国語Ⅰ(古文)を2:1として総合的に評価する。